

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 16 年 11 月 25 日 (2004.11.25)

【公表番号】特表 2000-506195 (P2000-506195A)

【公表日】平成 12 年 5 月 23 日 (2000.5.23)

【出願番号】特願 平 9-530676

【国際特許分類第 7 版】

C 0 8 G 18/00

C 0 7 F 9/09

C 0 8 G 18/72

C 0 9 D 175/04

【F I】

C 0 8 G 18/00 C

C 0 7 F 9/09 U

C 0 8 G 18/72 Z

C 0 9 D 175/04

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 2 月 25 日 (2004.2.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年2月25日

特許庁長官 今 井 康 夫 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第530676号

2. 補正をする者

名称 ローディア シミ



3. 代 理 人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル

青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士(7751) 石 田 敬



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙の通り補正します。

7. 添付書類の目録

請求の範囲

1 通

方 式



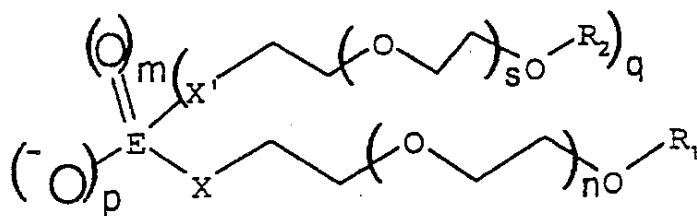
請求の範囲

1. アニオン性官能基と、少なくとも1つのエチレンオキシ単位のポリエチレングリコール鎖断片とを含有する少なくとも1種の化合物を含むことを特徴とする、イソシアネートをベースとする組成物。

2. 前記化合物が前記アニオン性官能基により形成された親水性部分と、前記ポリエチレングリコール鎖断片と、炭化水素をベースとする親油性部分とを含有することを特徴とする、請求項1に記載の組成物。

3. 前記親油性部分がアルキル基およびアリアル基から選択されることを特徴とする、請求項1または2に記載の組成物。

4. 前記化合物が、下記式Iに相当することを特徴とする、請求項1～3のいずれか1項に記載の組成物。



式中、

qは0または1であり、

pは1～2の整数であり、

mは0または1～2の整数であり、

XおよびX'は同一であるか、あるいは異なり、最大2個の炭素鎖の結合を含有するアームであり、

sは1～30の間から選択される整数であり、

nは1～30の間から選択される整数であり、

Eは炭素および少なくともリンの原子族に等しくかつ第VB族またはカルコゲンに属する原子族のメタロイド元素から選択される元素であり、

R₁およびR₂は同一であるか、あるいは異なり、炭化水素基である。

5. 対カチオンがアミンであることを特徴とする、請求項1～4のいずれか1項に記載の組成物。

6. 潜伏性触媒をさらに含むことを特徴とする、請求項1～5のいずれか1項に記載の組成物。

7. 下記の特性を示すポリオールをさらに含むことを特徴とする、請求項1～6のいずれか1項に記載の組成物。

8. 前記ポリオールがナノラテックスであることを特徴とする、請求項7に記載の組成物。

9. 前記ポリオールが下記の特性を示すナノラテックスであることを特徴とする、請求項7または8に記載の組成物：

15～60 nmの d_{50} ；

0.5～5質量%のカルボキレート官能基；

1～3%のオール官能基；

25～40%の固形分；

1マイクロメートルより小さい d_{80} 。

10. 界面活性剤／イソシアネートの質量比が20%より小さいことを特徴とする、請求項1～9のいずれか1項に記載の組成物。

11. 前記組成物が水中のイソシアネートのエマルジョンであることを特徴とする、請求項10に記載の組成物。

12. 10～70%の水分を有する水中油型エマルジョンを構成することを特徴とする、請求項1～11のいずれか1項に記載の組成物。

13. 水中のイソシアネート＋乳化剤＋アルコールの含量が30～70%であることを特徴とする、請求項1～12のいずれか1項に記載の組成物。

14. イソシアネートをポリオール＋水の混合物に添加することを含むことを特徴とする、イソシアネートを乳化する方法。

15. 攪拌をマニュアルまたは機械的に行うことを特徴とする、請求項14に記載の方法。

16. 50℃より低い周囲温度においてにおいて実施することを特徴とする、請求項14または15に記載の方法。

17. 水性相のpHを3より高い値に調節することを特徴とする、請求項14～16のいずれか1項に記載の方法。

18. イソシアネートの添加前に、1種または2種以上のポリオールの中に顔料を分散させることを特徴とする、請求項14～17のいずれか1項に記載の方法。

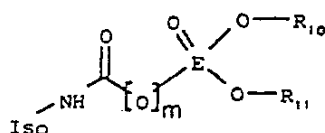
19. 乾燥状態で10～150マイクロメートル、湿潤状態で60～150マイクロメートル、の層を適用することからなることを特徴とする、コーティング18を製造する方法。

20. 20℃～50℃において15分～3時間乾燥することを含むことを特徴とする、請求項19に記載の方法。

21. 溶媒の存在において乾燥を実施して水の除去を促進することを特徴とする、請求項19～20のいずれか1項に記載の方法。

22. コーティングをスプレーによるか、あるいはねじ込みロッドのアプリケーションにより適用することを特徴とする、請求項19～21のいずれか1項に記載の方法。

23. 式：



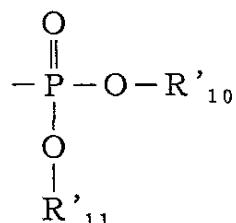
(式中、

Eは周期表[Bulletin de la Société Chimique de France January 1966 No. 1に対する補遺]の第VA族の元素であり、

Isoはイソシアネートまたはポリイソシアネートの残基(1つのイソシアネート基を除去した後の)であり、

R₁₀は負の電荷または炭化水素残基(すなわち、水素原子および炭素原子を含有する)であり、その結合点(すなわち、解放結合を有する原子)は炭素であり、R₁₁は、

- 負の電荷；
- 式II：



の基から選択され、

R'_{10} は炭化水素残基 (R_{10} と同一であるか、あるいは異なる) および負の電荷から選択され、その結合点 (すなわち、解放結合を有する原子) は炭素であり、1またはそれより多い R'_{11} は炭化水素残基から選択され、その結合点 (すなわち、解放結合を有する原子) は炭素であり、これは R_{10} および R'_{11} と同一であるか、あるいは異なる) および負の電荷から選択される)。

の化合物。

24. Isoがトリマー (イソシアヌレート) またはビウレット (少なくとも1つのモノマーはエチレン鎖配列を介してそのイソシアネート官能基を有する) の残基であることを特徴とする、請求項23に記載の化合物。

25. Isoがトリマー (イソシアヌレート) またはビウレット (モノマーはエチレン鎖配列を介してそのイソシアネート官能基を有する) の残基であることを特徴とする、請求項23または24に記載の化合物。

26. エチレン鎖配列を介してそのイソシアネート官能基を有する1またはそれより多いモノマーがポリメチレンジイソシアネートであることを特徴とする、請求項24または25に記載の化合物。

27. Isoがヘキサメチレンジイソシアネートのトリマー (イソシアヌレート) の残基であることを特徴とする、請求項23または25に記載の化合物。